

苦工同窓会
関東六華会
会報
第10号
2013.4.15

発行責任者 坂本敏弘
編集 一夫 頭二
編 祥 政 橋 陽
馬 瀨 三 阿

母校創立九十周年を祝い

平成二十五年六月八日

関東六華会記念総会を開催

関東六華会会長 坂本敏弘

関東六華会会員の皆様におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。

同窓会支部活動に対し、いつもながらの暖かいご支援、ご協力を頂きまして心から厚く御礼申し上げます。おかげさまで、関東六華会は一昨年の度重なるアクシデントを乗り越えて順調に活動を続けることができました。

昨年六月の総会では、七十名の方々がご出席されました。母校創立九十年の歴史を示すかの様に、大先輩伊藤さん（電気十四）から一番若い歌手飯



昨年の関東六華会総会にて

島さん（土木平成十五）まで大変な年齢差となりました。しかし、ご参加の皆様は、年齢差による違和感を全く意識することなく、賑やかに、楽しく懇談されました。本当に嬉しい限りでした。また、三年連続で北海道代表となり全国大会（東京で開催）に出場した、苦工定時制女

子バスケットボールチームを、昨年も皆さんで応援しました。昨年の応援は、六華会会員は勿論のこと、日頃から仲良くしている、東京とまこまい会有志の皆様（西高、高専、南高OB）にも参加して頂き、大応援団（？）を結成し、二日間に渡って応援することが出来ました。

後日、学校から頂いた「大会報告」に、記載されているコーチの先生、選手の皆さんの「応援感謝」のコメントを読んで、益々東京には心強い先輩達がいると思つて貰えるよう、頑張らねばと思つていました。今年母校は、創立九十周年を迎えます。

関東六華会会員の皆様は、

「母校の誇りと同窓の絆」を強く持ち、自分の力を信じて、仕事一筋の道を歩んだ方が多いと思つています。私も若い頃は、今仕事に対する能力が高まるのは、学校には関係なく、自分自身の努力と経験の成果であると思つていました。しかし、年齢を重ねて始めて、技術者としての原点が、学校の専門教育にあると気づく。そして、誇りと絆を、伝統を実感するようになりました。苦工は私達の心の故郷です。故郷が九十年の長きに渡り、存続している事の喜びを、皆さんで祝いましょ。

年齢に関係なく、先輩後輩の関係を難しく考えることなく、一堂に会して祝いましょ。

同窓会本部では、十月十九日苦小牧市で記念式典を行います。我々、関東六華会は六月八日（土）記念総会を、「銀座ライオン」にて開催いたします。この日はやはり、お忙しい人も、なんとなく出無精になつていても、予定に入れて、ご出席頂きたいと願つております。私達執行部全員は、この二日間、記念総会の大集会実施に向け真剣に取り組んで参りました。皆様のお力添えで、どのように実を結ぶのか、期待し楽しみにしております。

創立九十周年記念事業のひとつとして、吹奏楽部に楽器が贈られました。吹奏楽部OBで、現在同窓会本部の副会長を勤められている工藤清一氏に寄稿して頂きました。—— 編集担当

吹奏楽部の思い出

苦小牧工業高等学校同窓会 副会長 工藤清一



こんにちは。私は昭和43年土木科卒業の工藤清一です。

現在は、苦工同窓会苦小牧市役所支部に所属しております。一昨年の関東六華会の会報で手記を書いた篠原和行さんとは同級生です。彼はアイスホッケー部のGKで活躍、私は吹奏楽部でフルートやピッコロ

を担当して参りました。

私が吹奏楽部に入ったきっかけは、鶴川中学校1年生のときに横笛が上手だからフルートかピッコロをやらなにかということで吹奏楽部に入りました。中学の経験が買われたのか、苦工に入學すると先輩から吹奏楽部に誘われました。中学時代はピッコロを吹いていましたが、苦工時代は主にフルートをやらせていただきました。入學したての頃、2年先輩で秋葉さんという方のピッコロやフルートの音色が美しく指の動きが凄人でした。私は常にその人を手本としておりましたが、追いつくことは出来ませんでした。

練習は音楽の先生がいなかったために3年生の先輩が指揮を執り、1、2年生を指導してくれました。春の有珠優健学園慰問へ向けての練習が始まり、野球部の応援、夏には港まつりに参加、秋は日胆地区大会や苦工吹奏楽部演奏発表会、冬はアイスホッケー部応援と卒業式・入学式などで一年中充実していました。

練習には忘れられない思い出があります。入部したての頃、トランペット担当の先輩に呼ばれ「タバコを吸いたいから見張りをしてくれ」といわれ、入口の窓ガラスに額をくっつけていると先生がやってきました。「先生が来ました！」と言いにいくと、先輩はタバコをペットの中に放り込んでトランペットを吹かず、先生がいなくなるまで吸い込んでいました。さすがに、その後、先輩が練習中にタバコを吸うことはありませんでした。当時は部員数より楽器が少なかったため、よく東中学校や駒澤高校へ楽器を借りに行った事も今では懐かしい思い出です。



3年生の春に、定時制の高橋清先生が神奈川県でトランペットをやっていたとの話が舞い込み、是非、指導を仰ごうという事をお願いにありました。先生は、「指導というより皆さんと一緒に練習しましょう。」と快諾してくれました。それから、秋の日胆地区大会優勝を目指して猛特訓、毎日のように夜8時頃まで練習していました。その甲斐あって、優勝候補の室蘭栄高校を抑えて地区優勝したときは全員が感極まり泣いたものです。

全道大会は函館市で開催され、高橋先生は修学旅行引率のため参加できませんでしたが、それで、指揮者は3年生の大竹徹さんが執ることになり、見事に代役を果たしてくれました。この時期は、修学旅行の最盛期でもあり、当然、苦工も修学旅行でした。だが、旅行対象者の2年生は全道大会に参加したいの思いから親の承諾書ももらい、学校には修学旅



創部3年目 1958年8月 苫小牧市港祭 囃楽と指揮棒を捧げる初代顧問 今井春夫先生

なのか、おだち心(*註) からののか喫煙や、飲酒が見つかり、顧問の白井先生、三沢先生に大変迷惑をかけてしまったことに心を痛めました。このような状態で挑んだせいか、優勝・準優勝の発表に苦工の名は呼ばれませんでした。全道大会に参加できたということには満足しましたが、2年生達には大変申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。いまでも心に傷を抱え反省している私ですが、次女が苦工に入学して吹奏楽部に入り、フルートを担当したということが、嬉しくもあり、気が晴れたい思いもありました。

行を自主的に辞退することを出して、全員で地区大会に参加することとなりました。大会では前日から全員気が昂ぶり、なかなか寝付かなかつたため

最後に、同窓会の一層の発展を祈念すると共に、私も微力ながら「オール苦工」の一員として力を注いでまいりたいと思います。

*註「はしゃぐ心」 (龍川井)

苦工創立九十周年記念

苦工同窓会「関東六華会」

平成25年度 総会・懇親会の開催ご案内

「関東六華会」記念講演会
日光アイスバックス監督
村井忠寛氏 (苦工建築科 平成6年卒)

日時：六月八日(土) 11時〜
場所：銀座ライオン七丁目店6階
銀座クラシックホール

苦工創立90周年記念式典・祝賀会
平成25年10月19日(土)
記念式典(苫小牧工業高校体育館) 10時〜
祝賀会(クラフトホテルニュー主子) 13時〜

苦工は、アイスホッケーにおいてこれまで輝やかな歴史を築いてまいりました。そんなアイスホッケーに中学、高校(苦工)、大学、社会人(古河電工)、日光アイスバックスで活躍、そして二〇一〇年監督(今期いっばいで退任)に就任された「村井忠寛氏」に講演をして頂きます。

氏にはアイスホッケー一筋のこれまでの人生とその思いのたけを自由にそして熱く語って頂こうと思います。

我が苦工同窓会「六華会」会員には沢山のアイスホッケーファンがいると思います。第一線で活躍された氏の講演を楽しみに参加して下さい。

村井忠寛氏のプロフィール及び経歴

- ・生年月日 一九七五年七月二十五日
- ・身長・体重 一七〇cm 七〇kg
- ・選手経歴 苫小牧光洋中：苫小牧工高
- ・大学：東洋大学：古河電工：日光アイスバックス
- ・代表歴 ユニバーシアード代表一回

【経歴】

- ・一九九八年 古河電工株式会社に入社
- ・一九九八〜二〇〇八年 古河電工アイスホッケー部の廃部を経験し、その後も日光アイスバックス一筋でプレーを続け、二〇〇九年三月に現役を引退しました。
- ・二〇〇九年シーズンからはヘッドコーチ、二〇一〇年シーズンから監督として日光アイスバックスを指揮し二〇一一年シーズンには、史上初となるアジアリーグ準優勝へチームを導きました。





坊坂明大先輩(電気23回)と ゴルフをして

石堂 鉄雄 (土木39回)

昨年の総会・懇親会の結果報告をメールにて配信したところ、坊坂さんより返信を頂き、昭和二十三年卒の皆さんの出席がなかったのが残念だったが、日立製作所で公私共にお世話になった電気昭和十四年卒の伊藤和夫さんが、ご夫婦で参加していて久しぶりで懐かしかったとの話、ご自身の奥さまは、東京貝谷バレエ団のプリマバレリーナでしたが十三年前に残念ながら他界し、生きていたら同窓生の皆さんの前で踊りを披露出来たとの話。

ゴルフは八十二歳にして週2回のラウンドを継続中、極めて元気、正式ゴルフコンペでのエージシュートは十七回を達成し、九十歳



でのエージシュートを夢見て人生を楽しく過ごしているとの話を頂き、また来年元気であれば総会・懇親会に出席したいと思っていますとの話を頂き、少しゴルフをかじる私としては是非、この大先輩とゴルフを御一緒にしたいとの気持ちに駆られまして、ゴルフを教えて頂けませんかと坊坂さんにメールでお願いしましたら、後輩たちと一緒にゴルフが楽しめるなんてこんな幸せはありませんと快諾して頂き、プレーしながら爽やかな風、太陽、雲、草花そして人との出会いを懐かしみ、そこに絆の温もりを感じ、これらを大切に・・・。そんな出会いにしたいですねと言われました。いい言葉ですね。まさに苦工同窓会の真髄を言われたような気になりました。

土木昭四十三年卒の篠原さんに茨城県笠間市の「CCザ・レイクス」を予約して頂き十月十二日に土木昭三十五年卒の早坂さん(栃木県塩原在住)、電気昭四十五年卒小野寺さん(千葉県市川市在住)、坊坂さん(茨城県日立市在住)、私(千葉県市川市在住)の4人でプレーすることになりました。当日、強者の大先輩とゴルフをプレーするという事で緊張して行つたのですが、私達より先にゴルフ場にいらしていて、恐縮して挨拶をしたら、なんと気さくに挨拶を返してくれ、すぐに打ち解けることが出来ました。プレーの中で教えて頂いたのは、中傷しない、ほめる、不愉快な思いをさせない、ただひたすらに緑のフェアウェイを歩く、これがシルバークラフの鉄則とこのことを教わりました。歳をとっているのを自覚していない自分としては、この言葉を教訓したいと思いがちながらプレーし

ているとなんと余裕があるというか、坊坂先輩は前や後ろでプレーしている皆さんとすぐに親しくなり気軽に声をかけ、しかも先方の皆さんも声をかけられる事になんの違和感もなく溶け込んでおりました。

早坂先輩、小野寺さんとも話しましたが、坊坂さんが元気なのは人と接するとき何の気負いもなく素直な気持ちで対応し会話が出来る、そして喜びを感じている、そのことが元気の源と感じました。私も真似をしたいのですがこういうことは一朝一夕では出来ません

がこれからの人生どう生きていくかを教えられた楽しい時間でした。

坊坂先輩ありがとうございます。坊坂さんは、今回借しくもエージシュート達成は出来ませんでした。我々後輩にゴルフはもちろん沢山の人生の教訓を教えてくださいました。また機会がありましたらお会いし、ゴルフは勿論、人生についてお教え頂きたいと強く思う一日でありました。いつまでもお元気で。ありがとうございました。

あの日、あの時！ 1967 全道大会決勝 対 苦東高戦

王子体育館は立見席まで満員 7,000人余の大観衆
苦工は、苦東高に惜敗す。



ゴールポスト前の**攻め**

1966 全道大会決勝 於：帯広市



苦工が勝って優勝

1970年 長野国体 十条製紙の補強で参加

苦工ゴールキーパー三人男



※今回の写真は篠原氏(土木43回)に提供していただきました。
"あの日、あの時!"について、詳しくは本紙9頁に記載しています。



アルプス七ヶ国巡り 川上 毅 (工化28回)

一、きつかけ
仕事で海外を訪れるも、その国の文化に触れるまでに至らず、退職を契機に異国文化に強く興味をもった。

その頃『理想の集落がピレネー山脈山中にあり学者仲間で見目され、産婆さんを首長とする村が点在する』と、ある講座(京都文教大・鈴木七美氏)で聞かされたこの地に興味を持たされた。しかも『フランスからスペインに至るピレネー山脈越えの難所、ホタテ貝を着けての巡礼の地』であり、また観光ルートでもある故に興味が増幅し、この地の旅に燃えた！

しかし実現しなかつた！
大型バスで街なかを巡るツアーはあるも、ピレネー山中の狭い巡礼道を辿らねいと得られない秘境に近いこのルートは、旅行社に応募はあるも参加者が少なく、ツアー成立が出来ずに終わった。

稀に実現した旅仲間によると『巡礼者が数ヶ月辿る道程を、旅行者は短期故にジープ数台に分乗して山麓に分け入った由』この旅は数多くの旅なかでも最高だったとの弁。それだけに悔しい限りだった。

その折眼に留まったのが…
『スイス伝統の村々を巡り名所をハイキング』だった。『ピレネー山麓をスイスの伝統の村々』に変更し、結果は大満足で文化の多様さと世界は広いと実感した。

二、スイスだけのつもりが七ヶ国に！

アルプスの絶景と文化に魅せられアルプス山脈を求め最東端バルカン半島のユリアンアルプスとティナルアルプスにまで及んでしまった。

今でこそスロベニア、クロアチアの国へは普通の観光コースとなったが、当時は何で行ったの？であり、同行の仲間達も『世界大戦の火薬庫・バルカン半島』を観察したい…と歴史的興味からで景観ではなかった。

同様に北イタリアのドロミテアルプスは今では



アルプス山脈
時計回りに中央部からスイス、オーストリア、クロアチア、スロベニア、フランス、ドイツ、北イタリア

世界遺産に認知

されたが当時は少数派だったし、伊から仏へのアルプス天空国境越えのこれ等はヨーロッパでは知られた人気の地とかで、再度訪れた絶景地だった！

スタートは、九年フランスがワールドカップに優勝し、仏の国境付近のため若者達がはしゃぐレマン湖から始まった。

二一、スイスの伝統の村々を巡る

当初はスイスだけのつもりでレマン湖畔ではさしたる感動もないヨーロッパの街中の風景だった。それが一変したのは翌日からである！『水河

で削られ延々と続くスイス最大の谷・ローヌ谷(富良野に長深の谷を作った如きにシオン・プアール丘陵があり丘上には城と教会が聳え、早朝霞たなびく幽玄の世界)…で朝食前の散策から始まった。

谷の南側の山越え途中にはカッパドキアの松茸状奇岩と同じ風景と、谷にヘリポート付き病院

棟が繋がっていた。



スイス最大のローヌ谷

山越えの先はマツタホルンで、大半の日本ツアーはここに向かう。途中左折の先が『伝統村のレゾデル村、エボレーヌ村』と『水河の村サースフェー』だった。



伝統の村レゾデル スイス版木曾路だった

村々は花々で木造家屋を覆って遠来の客を迎えてくれ、道端にはサクランボがたわわに実りその実は旨く観光客がゆつたりと散策を楽しんでいた。東洋人おろか日本人客も殆どいなかった。

この外にスイスの中部と東部の村々を尋ねたが都市よりも伝統の村は、安らぎがあり異国の地なるも文化豊かなる故に、何故か故郷への訪れを感じた。この情景は今でも忘れない！

二二、本場のアルプス連山に魅せられ

眼下に『水河、中腹の山の緑、足元の花畑の三点セットの景観』は、行く先の山々の随所で見られ夫々が異なるので飽きさせない！

さすが本場アルプスと驚嘆！ しかも四千m級の名峰でも登山電車やケーブルカーがあり容易に頂上から展望が出来たからである。

話を戻して、前述の伝統の村々の先が『水河の村サースフェー(1809年)』で、アルプスの真珠と呼ばれて大小の水河に囲まれていた。風呂上りに

バスロープに身を包みホテルバルコニーから迫る水河の眺めは暫し時間を忘れた。翌日近くのロープウェイを乗継ぎミッテルアラリン展望台(3456m)に！ スイス最高峰ドム(4545m)を背に山々の頂上と銀世界だった。又ここは4km級が十三峰も連座し雲間に聳える様はまさしく地球で『登頂の感動は苦勞の末だからと言う』が違うと思う。定年過ぎの小生如きには体力を残しての山頂での散策もままならないからである。尾根伝いの人々は蟻の列の如くに見えるさまは、天下を制した如き眺めだった。

中腹から名峰を眺める！

今度は山頂からではなく名峰を中段横からの展望で眺め三つ峠に登り富士山を見る趣向だった。場所はスイス中央の『九一年前に難所アイガー北壁を初制覇したのが日本人の植有恒さんで、山小屋を建設寄贈し、邦人にも人気のアイガーのベルナーアルプス』だった。アイガーの地中走行で登山する電車で展望台まで容易に行けるが『中腹からの名峰を展望に徹する』を楽しんだ。まず一つは『ミューレンホテル村』で谷間に宙吊りの鳥の巣の如きで、さすが観光国は良い所に作るものと感心した。宿泊は名



4km級連山谷(左)を後方にマッターホルンを前方にアイガーが！

先にエーデルワイスが咲き、部屋の窓からは目前に四千mの高山が迫るさまはまさに凄いし、又、山々の表情が刻々変化し連泊したが飽きることはなかった。以上 前編は巡り旅の動機となったのがスイスだったのでスイスのみに、後編(次号)はスイスの続きと、国毎の旅で知り得た文化と感動を記します。

苦工同期会便り

電気科昭和三十六年卒

「クラス会」開催

駒 米 隆 (電気昭和36年)

平成二十四年十月十三日(土)、卒業以来五十二年振りに電気科の仲間十三人が集まりました。各人が会社、地域ごとに集まっていたですが、全体で集まる機会が今までありませんでした。私が坂本会長の誘いで「関東六華会」の平成二十三年度会計監査に就任したことから、他の学年やクラスは集まっているとの情報に接したが、我が同級生は残念ながらバラバラで纏まっていませんでした。石堂副会長が同窓生に送っているメールの中に、



見し、早速二人に連絡を取りました。そして、電気科A・B組の内地就職者の会員名簿を頼りに、名簿作りを開始したが不明者が多く、物故者もいて難儀したが、半年かかって二十人までリストアップし、まず全員へ手紙を書き電話連絡をした。

制女子バスケットボールの応援には医師の許可をもらって瀧野君が二日間駆けつけてくれ「クラス会」の前に同級生の皆さんと交流が広がりました。

当日会場になった新宿の中華料理屋さんへ集結。最初五十二年の落差は大きく「お前は誰だ！」でしたが、一瞬にして五十二年前のクラスメートにタイムスリップ。



ゲストとして坂本会長、石堂副会長、阿部幹事長にも参加を戴き、「関東六華会」への理解を深めて頂き、その後は各人が自由に交流・歓談。話が尽きずあつという間の夢のような楽しい三時間でした。激動の高度成長期を企業戦士、事業戦士として闘いぬぎ、今は穏やかな顔がありました。そして、今回出席できなかった方も含めて再会を誓い、「クラス会」は終わりました。

二クラス会を計画してくれ、東京からは皆に会いたいと急遽北館君も駆けつけ、十五名が再会を喜び合いました。これからは道内・内地の交流が増えて行くと思います。クラス会の前に、古希を迎えても北大大学院生として勉学に励む名越君(本部副会長、元苫小牧市議会議長)と高原君、北館君四人で黄葉の綺麗な北大校内を散策しクランク博士の前で記念写真。学食

も。至福の時間でした。我がクラスは永遠に不滅で、これを機会に「創立九十周年」の総会には大勢出席して戴けると思います。苦楽を共にしてきた同級生仲間が古希を迎え新しい一歩を踏み出した瞬間でした。次の「クラス会」が楽しみです。次は東京での第一歩上野駅にある「ああ上野駅」の歌碑の前で大きな声を張り上げたい。

【電気科昭和三十六年卒同期会参加者】
A組から及川健也、岸田天徳、佐藤孝雄、土田清三、鳥井賢治、西村陸三

直後、全く音信のなかった宮地君から義兄から連絡を受けたと、携帯電話へ懐かしい声が届き大感激しました。参加出来なかった方には、集合写真に名前を付けて送り、出席者には阿部さんのご厚意でWeb上にスナップ写真を配信。

そして北海道の同級生にはメールに写真を添付して報告。それがきっかけで、高原君が私の十一月十一日に追分小中学の同期会出席で札幌へ行くのに合わせて、前日の十日にミ

坂本会長(電気31回)、石堂副会長(土木39回)、阿部幹事長(機械36回)でした。

電気通信科昭和三十八年卒 五十年ぶりの再開、またやります

桜 井 武 春 (電通昭和38年)

二〇一二年十一月七日苦工三十八年電通卒の関東同期会を開催しました。トリガーは、関東六華会の石堂氏から頂いた同期会だより(メール)でした。自分達の同期生とも会ってみたいと考え六華会や同期生の紹介を通じて九名の所在が判りました。

突然電話をしても時節柄、詐欺と間違われてもと思ひ葉書でご案内したところ、思いは皆同じで「是非会いたい」とすぐに反応があり早速同期会開催の運びとなりました。残念ながら二名は闘病中で参加出来ませんが、あとの七名全員と特別参加の石堂さんで計八名の宴会でした。

場所は港区浜松町の和食料理「えんの里」で一旦JR浜松町駅改札口に集合してから会場に向かうことにしましたが、ひよつとしたらあの人も？ 声を掛けても何方様で？ と不安な再会劇でしたが、十七時からの開宴

でお酒が入ると直ぐに昔話に華が咲き、思い出せなかった人の面影も徐々に浮かんで来た様でした。

皆さんの自己紹介で、蟹谷さんはまだ現役(自営業)で頑張っていますが、他の方はリタイヤして悠々自適に過ごされている様でした。

・中山さん(地域でテニスクラブのコーチ)



左から石堂(土木昭和39年卒)神田、蟹谷、桜井、桂田、大徳、中山、後藤(旧姓津川)

- ・大神田さん(田舎暮らし・自然農園)
- ・桂田さん(自治会役員)
- ・神田さん(元職場での技術支援)
- ・後藤さん(主婦水道設備図面作製バイト)
- ・桜井(野菜農家でのボランティア)

この中で特に関心の高かった大神田さんの話題を紹介します。

病気がちであったことから五十五歳で早期退職を決意して、一人山梨県南アルプス市に入植、北海道の田舎(追分)は農家であったので土いじりは予てからの夢でもあり、山梨に古民家を購入、畑二反を借りて徹底した有機野菜作りをしています。

有機肥料は冬の間に剪定枝などを粉砕した物(バーク堆肥)や落ち葉などに米ぬかを混ぜて堆肥を作りますが、肥沃でC/N比の高い堆肥作りが有機野菜の最も大事な作業だそうです。(バーク堆肥のために自前の粉碎機まで購入するほどの徹底ぶり)

自宅は川崎にあつて時々戻つて来るようですが、農作業が忙しい時期は山梨に行きつ放しになり、春はきゅうり、なす、

とまと・など、秋は白菜、小松菜、ねぎ、いも・など週一〜二回、ヤマト便で川崎に送つて奥さんが近所へ配達しているそうです。

山梨は南に富士山、北には八ヶ岳、西は北岳など絶景の地、そして味覚、歴史の地でもあつて私(桜井)も大好きな所です。

桜井の家では毎年恒例で四十年間、テント持参のオートキャンプが続いていますが、今年(二〇一



二)は山梨の絶景巡りをテーマに八ヶ岳キャンプ場(二泊三日)に行きました。しかし、雨模様のため絶景巡りは見送りとつたので、次の機会は大神田さんの古民家(自然換気方式、鼠・昆虫出入自由だそうです)も訪ねてみたいと思つています。

五〇年ぶりの再会、同期会はずつかり盛り上がり時間を忘れて何と四時間半、次回開催を約束してお開きしましたが、「えんの里」の女将さんには大変お世話になりました。

建築科昭和三十九年卒 卒業後四十八年ぶりの再会に乾杯

榎 林 秀 男(建築昭和39年)

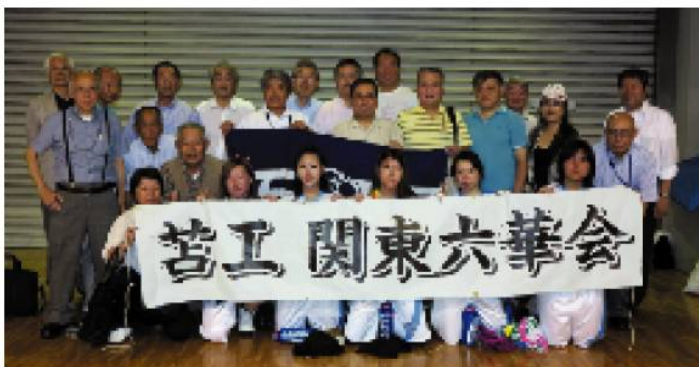
ロンドンオリンピック間近な八月二十四日(金)東京・神田駅近くの居酒屋で建築三十九年卒業の五人(関東圏在住者)と山下 祝男君の札幌から上京に合わせ四十八年ぶりの同期会を開催することが出来ました。我々は東京オリンピックが、開催された一九六四年

三月に卒業しました。当時は、日高線沿いの、末広町にあつた二階建て木造校舎で学びました。オリンピックキヤーの、この年に再会出来たことに意義を感じ乾杯をしました。顎鬚、黒髪、痩せ、チョット太め、と体形と容貌は様々に変わり、

肉声に勢いのある人言葉やさしく温和な人など人生六十六年色々ありましたが、皆な元気な「オヤジ」になり、飲む口実ができ大変盛り上がった一時でした。話題は、定年後の健康や家族のことや、学生時代のことなど、話は尽きませんでした。末筆になりましたが、土木昭三十九年卒業の石堂鉄雄さんの、ご尽

第22回 全国高等学校定時制通信制 バasketボール大会 3年連続 全国大会出場！ 平成 24年 8月7日(火)～11日(土) 駒沢体育館

苦工定時制女子バスケ



苦工定時制女子バスケ部が又々やってくれました。昨年も全国大会に出場し、なんと見事初戦を突破！しました。応援に駆けつけてくれた苦工同窓生ほか苫西高、苫高専の皆さんありがとう。今年もガンバロ～。



力により開催の運びとなり心より感謝申し上げます。

【建築昭三十九年卒同期会出席者】
平野 洋(千葉市)、鶴巻 俊秀(川越市)、鈴木 弘(川崎市)、吉田 博康(松戸市)、榎林 秀男(流山市)、山下 祝男(札幌市)

苦工同窓生の各方面で ご活躍の方を紹介

九十余才にしてパソコンを駆使。生産管理ソフトの開発をライフワークとしておられる伊藤さんをご訪問いたしました。

伊藤 和夫さん (電気14回)

昨年(24年度)の関東六華会総会の参加者中、最長老の伊藤和夫さんをご記憶されている方も多いと思います。伊藤さんは昭和十四年電気科卒の大先輩です。そんな先輩から、「関東六華会の運営に、少しでも力になりたい」、については「現役時代の経験を基に自ら制作したコンピュータソフトを同窓会に無償で提供するので、同窓生及びその関係者で希望する人に活用してもらい、幾らかでも対価が得られた場合は全て同窓会に寄付したい。」との申し出がありました。



昨年の総会にて 奥様、伊藤さん、板本会長

コンピュータ関係に詳しい松田貢さん(電気昭和36年卒、IBM・OB)に相談の上、昨年十月十日に、松田さんと私が横須賀市の伊藤さん宅をお訪ねしました。私は、話の半分は世間話程度に思っただけですが、「生産管理」を中心とした濃いビジネスの話題で2時間余りを過ごしました。伊藤さんのお話しの流れに無駄が無く、また素人の私にも分

かりやすいように、丁寧に説明して下さいました。何よりもソフト開発にかけられる情熱がひしひしと感じられました。

又その折、伊藤さんから九十周年記念行事に寄せ同窓会本部に渡してほしいと寄付金を託されました。更に関東六華会にも寄付の申し出を頂きましたが、松田さんと相談の上、関東六華会についてはお気持ちだけを頂くこととし辞退させて頂きました。伊藤さんの、母校と後輩達を思いやるお気持ちに感動の2時間でした。

ソフトの記録メディア及び関係資料一式をお預かりして頂きましたので、ご興味のある方は六華会事務局のメールアドレス宛てにお問い合わせください。

阿部陽二(機械36回) 記

伊藤さん開発のソフト

生産管理システム

(トヨタ・カンバン方式活用)

伊藤さんが、現役時代に実践されて大いに成果を上げられた『生産管理システム』を、『生の実務経験』から、誰でも活用できるようにエクセルをベースにコンピュータソフトとして制作したものです。成長期の中・小規模の工場に最適なソフトではないかと思えます。エクセルをベースにして作られたソフトなので、エクセルを使える方なら自分でカスタマイズすることも可能と思われれます。

水天宮周辺を拠点に活躍されている方を駒米さんがご紹介。蒲原さんは、和食の店「蛸」を経営。守谷さんは著名な弁理士です。なお、お二人にはこの会報の広告スポンサーになっていただいております。ありがとうございます。

蒲原 進さん (工化40、43)

私が初めて「蛸」に行ったのは十年前、蒲原三兄弟の長男である蒲原勝美(電気38回)さんに誘われ、三男坊の進さんが経営している居酒屋「蛸」に行きました。

お店は半蔵門線「水天宮前」5番出口を出て1分の小さなビルの2階にランチもやっている十坪位の小さなお店(カウンター席、テーブル席)のカウンターのの上には、オーナーの故郷である「虎杖浜」から、毎日空輸されて来る新鮮な魚介類と野菜を使った家庭料理



「蛸」にて 左から 蒲原進、守谷、駒米、石堂

日々異なる20種類以上のおばんざい大皿料理をご用意! 大人の隠れ家!

ふるさとの味 蛸 (ほたる)



〒103-0014
東京都中央区日本橋蠣殻町2-5-4
パークハイツ日本橋蠣殻町2F
地鉄半蔵門線水天宮前 5番出口から1分
TEL: 03-5652-5988

定休日: 日曜日/連休になる祭日
営業時間: 昼 11:00~14:00 夜 17:00~23:30

「東京とまこまい会」について

苦小牧市東京事務所
小名 智明



「東京とまこまい会」は、東京および近郊にお住まいの苦小牧出身の方、勤務経験のある方など苦小牧にゆかりのある方々が、交流と親睦を深める機会を設けようと昭和60年に設立されました。

以降、毎年総会及び懇親会を開催しており、ホツキ貝をはじめとする郷土の味に舌鼓を打ちながら、「苦小牧」という共通の話題とともに懇親を深めていただいております。

会の運営におきましては、関東六華会の坂本会長に副会長を務めていただくなど、苦小牧市内各校（工業、東、西、南、高専）の同窓会の皆様にもご協力をいただいております。昨年10月に開催された総会・懇親会は約180名のご参加のもと、苦小牧工業高校を平成15年卒業の歌手「Atsushi」さんにも歌声を披露していただき、会を大いに盛り上げていただきました。

今年の総会及び懇親会は10月18日（金）の開催を予定しております。ふるさと苦小牧から取り寄せたホツキ



「東京とまこまい会」総会にて 苦工同窓生 2014年10月20日

貝や毛ガニ、ししゃもなどの海の幸をふんだんに使った料理をご用意するほか、特設コーナーでは海産物やハスカップを使用した菓子類など名産品の販売も行いますので、関東六華会の皆様におかれましては、知人、友人お誘いあわせの上、是非ご出席いただきませうようお願い申し上げます。

追記

4月1日付けで 加賀谷 隆が新所長として赴任しました。

事務局だより

●本紙（昨年号）にて、特別講演の講師を作家の小椋山博氏とお伝えしておりましたが、小椋山氏の日程が合わず中止しました。

●新たに、日光アイスパックス監督の村井忠寛氏に講演の依頼したところ快諾して頂き、特別講演会が実現しました。

— 事務局

●4頁に掲載の囲み記事「あの日、あの時！」

は、篠原和行氏（土木43回）に急遽、資料を提供して頂きました。新聞や雑誌の編集に携わった事のある方なら、紙面のスペースと記事の量とのマッチングの難しさを経験されたことがあるかと思えます。「空きスペースを如何に無駄なく、魅力的な記事で埋めるか」これに皆さんのご協力をお願い致します。「何時の号に載せてもOK!」の条件付きですが、あなたの思い出の感動「あの日、あの時!」の写真、資料や原稿を事務局までお寄せ下さい。

— 編集子

の「おぼんざい」が並んでいて、ついつい母の作った料理を思い出し、食欲を誘われてしまうとともに母の優しさと遠き故郷を思い出し、自然と何かがこみ上げて来る様なお店です。お客にはオーナーと同期の仲間や同窓生も多く、また吉幾三など有名人も訪れる隠れた名店で何時行っても混んでいます。

苦工同窓生の皆さん一度はふるさと味の「蛭」を訪ねてみて下さい。いつも混んでいますので、予約をしてみた方が確実に座ることが出来ます。

詳しくはURLをご覧ください。

URL: <http://oco.yahoo.co.jp/place/3795faadb0829ea3d2ae9bcf45721b4242a3a75/>

守谷 一雄さん（電通36回）

守谷一雄さんは、昭和36年に電通科を卒業し上京して就職。翌37年に東京理科大理学部へ進学、そして卒業と同時に41年に法政大学法学部へ入学。48年に弁理士登録。49年に今の事務所を開設して40年になる。平成3年に日本弁理士会副会長。平成15年から3年間弁理士試験委員など各種委員・役員を歴任。また各種表彰を受け、平成16年黄綬褒章受章。専門分野は電子、電気、機械、金属、応用物理、応用化学など多岐にわたり、国内にとどまらず海外でも活躍している。

業種は特許、実用新案、意匠、商標、国内外出願、権利特許、発明相談、調査/鑑定、著作権、審判、不正競争、契約、仲裁/鑑定、訴訟、弁理士全般。

訳書（共訳）には「ダグラス国際工業所有

権法」(AIPPI JAPAN)、著作に「特許のすべてがわかる本」(新星出版社)、「ビジネスモデル特許」(ナッツ社) 他がある。今も現役として第一線で活躍している。特許に携わっている人とは思えない気さくさがあり、気軽に事務所へ寄って苦工の昔話、仕事の話などをして、近くの「蛭」(本号で紹介されている同窓生の店)で一杯なんてのは如何でしょうか。

駒米隆(電気36回)記

特許・実用新案・意匠・商標・内外国出願・調査・鑑定・審判・訴訟

守谷内外特許事務所 MORIYA AND COMPANY

弁理士 守谷 一雄 (電通昭和36年)

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町1-13-4 第1テイケイビル3F
Tel: 050-3387-1450 Fax: 03-5614-7010
E-mail: moriyapatent@space.ocn.ne.jp
<http://www.benrishi-k.gr.jp/members/english/moriya-k.htm>

ふるさと通信

苦小牧は「いま」第2信

野辺 義治 (機械昭和50年)

同窓生の皆さん、春めいてきた今日この頃
いかがお過ごしでしょうか。今回、私の同級
生である、機械科五十回生の瀬谷政夫君から
2回目の原稿依頼を受け今パソコンに向かっ
ています。むかしであれば「ペンを持ってい
る」と表現したものでしょうか、今では全て
の事がパソコンで用を足すことができます。

良い時代なのかどうか？人との会話や動作を
やりとりすることを忘れた哺乳類は、いつた
い将来どのような形で存在し、生きているの
でしょうか、恐ろしくて想像したくもありま
せん。

さて、話題は苦工の今に切り替えさせて頂
きます。私が在学中昭和48年から昭和50年の
時の苦工の学科は「土木・建築・機械・電気
・化学・電子」の六学科全生徒数は約二二〇
〇人と大所帯の学校で女子生徒は一〇二名程
度であった記憶があ
ります。

それから早三十八
年後の現在の学科は
「土木・建築・電子
機械・電気・環境科
学・情報」の同じ六
学科で生徒数は約七
五〇名です。途中七
学科(六十設備)の



時もありました。

部活動は、硬式野
球・ホッケー・応援
団・柔道・スキー・
空手・剣道・サッカ
ー・バレー等男らし
いスポーツが盛んな
時期で一九七四年に
は巨人軍長島選手が
引退した年でもあり

ました。さらにこの年スポーツの出来事とい
えばジャンボ尾崎がゴルフで活躍、セントラ
ルリーグ中日が二〇
年ぶりに優勝、茨城
国体開催、ロッテ晴
れの日本一、社会ニ
ユースでは田中角栄
が血気盛んに日本列
島改造といろいろな
記事が脳裏をよぎり
ます。現在の部活は



さほど変わりませんが、こんなクラブが付加
されました。ソフトテニス・バトミントン・
陸上・ハンドボール・硬式テニス・ゴ
ルフなどのようなスポーツが新たに加
わり活動しております。成績はそれな
りに全道大会に数多く出場しています。

全国大会の部門ではホッケー・スピー
ドスケートにとどまっています。硬式
野球は過去の勢いがなく、優れた生徒
が集まらない状況から結果を出すこと
が出来ないというのが現状です。
学習面と就職では、私たちの年代は



「金の卵」の終わりの年代で殆どが大手企業
に就職し、マンパワーで作業をした時期でも
ありました。就職先では数多くの先輩達に迎
えていただき、本当に苦工はすごい学校なん
だと子供心に思ったものです。それから約三
八年の今日この頃、時代の変化に伴い機械の
自動化やアナログからデジタル化する情報技
術等により労働人口が激減し、さらにはコス
ト削減にともない工場が外国に立地され現地
の低労働賃金で、ものづくりが行われるよう
になった昨今、工業高校の生徒が就職する企
業は激減し、今では約二五〇程度の企業しか
就職時期に集まらない状況です。卒業する生
徒数が約二四〇名ですので苦工はまだ就職率
から言うとうまい方かと思えます。これも先輩
達が築き上げた苦工の歴史と社会人として立
派な姿で貢献していたからだと思えます。

しかしながら
これからの工業
高校の存在価値
は、私なりに考
えると、非常に
厳しい状況にあ
ると考えます。



なぜならば現
在の企業は即戦
力になる人材を
希望しますが、学校で学習している内容と現
場の技術レベルに格段の差があるというところ
がネックになるかと思えます。昔は企業
で基礎訓練や資格取得・安全教育を半年から
1年かけじっくり人材を教育し、ゆとりをも
った学習習得ができましたが、今では企業に

そんな余裕さえない状況であることが現実で
す。そして学校では技術を教える先生の技術
力が低下し、教本そのままの指導しかできて
いないのが実態(むかしの技術屋が存在しな
い)です。作業の工程や安全を考えて作業を
するノウハウを教えることが不可能に近いほ
どの状況になっています。そこで国は工業高
校の生徒にもものづくりに関心・興味が湧く手
立てとして全国高校生ものづくり大会(各部
門)を校長会の主催で十二年前から行ってい
ます。さらに二〇歳以下の若者達が争う大会、
若年者ものづくり大会もその一環として全国
的に行われています。このように時代の変化
に伴い若人を育てることを各部門で企画し実
行されています。しかし、残念なことに実行
したことが若者達に大きく反映されていない
のが実態ということですが、企業に余裕が無い
ことが引き金となり「育てた金の卵達」を



この頁に掲載の写真は野辺さんが送って
くれた苦工校内風景です。諸兄には懐か
しい機械もあるのでは！・・・編集担当

☑ 受け入れる手立てが少ないことに最大の原因があるかと思えます。
 いろいろと語りましたが、私も苦工で勤務できる時間が残り3年となりました。この時間を子供達のために有効に活用し、ひとつでも多くのことを子供達と共に疑問をもち解決することの大切さを考える学習を實行し、残りの時間を大切にします。

学校生活の思い出

石田 稔 (機械B昭和50年)

かれこれ、四十年弱も前のことから、まずはその当時の記憶を頭の隅から取り出す作業が誠に



大変である。(大笑い) 昭和四十七年に入学したが今の立派な校舎に対し、その当時は未広町にあり、大正時代に建造された、それはそれは木造の古びた校舎で、その昔の記憶の引き出しを開けると何故かしら“するめ”の匂いがした冬期間の石炭ストーブ(ダルマストーブ)を今懐かしく思い出す。

さてさて、学校生活の思い出と言っても、“苦工”と言う伝統と由緒ある男子校で、自分自身は運動や文化系のクラブに所属することもない極く普通の学生であったが、例外なく硬派な仲間と誘われ、その当時流行っていたアイビーヘアなる短髪系の髪形の友人達に紛れて、街を闊歩していた様に思う。
 まっ？！ そんな訳で、よく？ 学校をさぼっ

て(おっと、これは内緒か?! 笑) 友人の下宿でその当時流行っていた吉田拓郎や井上陽水等のフォークソングをギター片手にがなっていたものである。

また、何と言っても思い出されるのが、夏休みにバイクで仲間数名と北海道一周をしたことであろうか?! 友人の出身地である襟裳岬を経由し、野付半島の民宿では、素泊まりだったのにおばあちゃんからおにぎりと言う情けを頂いたり、仲間の一人がスピード違反で捕まるなど、いろんな泣き笑いが詰まった、とてもとても印象深く、満足の行く高校生活であったと思う。それにしても、このツリーリングの為に夏休み前半はアルバイトに明け暮れたが、その経験がその後の“仕事”お金を頂く”と言うことは“ちゃんと働く”ことであるとの厳しさ等を知ったよい社会勉強にもなった様に思う!

そんな我らも昭和五十年に卒業した訳であるが、第一次オイルショックなるものの影響を受けはしたが、何とか最後にはクラスのほぼ全員が就職出来たのは、当時の担任の居島先生のおかげと深く・深く感謝である。さて、時代は今「低成長・停滞経済」の中、自分の子供達世代の就職難や派遣社員等の身分に関する社会的な問題もあり、生きて行くのも相当大変かな?と思うが、何はともあれその悩みを共有出来る“仲間”友人”がいれば、きつと何とかなる!!! そんな気がしてならない。そんな高校時代は、一生の付き合いの“友人作り”の場なのではないだろうか!!! スマホでゲームばかりしていないで、“語ろうぞ”!!!!!! 諸君!!!!

PSC
PIONEER SERVICE COMPANY

「ICT」技術で人と人をつなぐ。

ワンストップソリューション ITサービスをもっとシンプルに提供したい

お客様

- テレワーク
- クラウド
- モバイル
- Web
- セキュリティ
- システム
- サーバ
- ネットワーク
- データセンター
- SI
- ITC

多様な雇用を生み出します!

当社はIT技術の大層数者からベテラン技術者まで、様々なフィールドで活躍できる技術領域・職種がございます。詳しくは当社ホームページでご確認ください。
 URL <http://www.psc-inc.co.jp/recruit/index.html>

新卒採用 大学院・大学・専門学校在学中で卒業予定の方
IT 未経験者採用 20歳代でエンジニアを目指す方
IT 経験20中途採用 設計・開発・運用保守業務経験者
ベテラン採用 IT業界で15年以上の経験がある方

株式会社ピーエスシー 東京都港区芝浦2-10-8 丸の内線丸の内駅
 電話 03-5561-1111
 代表取締役 石田 稔
 創業 1999年
 売上高 約200億円(2012年3月) 社員数 約7,000名(2012年3月)
 事業内容 ITサービス事業
 所在地 東京都港区芝浦2-10-8 TEL:03-5561-1111

役員自己紹介

前号に引き続き、新役員の自己紹介を掲載致します。同期・同級・同郷、また何処かで出会った縁のある方、皆さんの読後感想など事務局まで送って頂ければ幸いです。

伊東 隼次 監査役、機械36回
七十才

出身は日高線新冠町、3年間の汽車通学でした。昭和36年卒業後は、設備工事の会社に入社し、以後退職する迄、設備業界一筋に勤務しました。

平成15年、齊久工業株式会社を定年となりましたが、平成22年迄、契約社員として、若手の技術指導等で現場巡回の仕事を続けました。私共の仕事は、通常2〜3年の建設期間が必要ですので、自分が担当者〜現場所長〜管理



理者と変化するなかで、在職中に関係する現場は全て記憶できる程度の数でしかありません。そのなかで、思

い出すのは私の部の担当ではありませんでしたが、横浜ランドマークタワーの竣工検査に立会い、296mの頂部から見た絶景が想い出されます。又、私の最終現場巡回は、東京スカイツリー（大林組の組下工事）となりましたが、工事途中でしたので、350mの展

展望台迄しか登る事ができませんでした。近い内に450mの展望台へ見学に行くつもりです。

同窓会への参加は、阿部幹事長他のすばらしい同級生諸君が居る事が大きな動機となりました。少しでもお役に立つ事ができればと思っています。

どうぞ宜しくお願い致します。

編集後記

苦小牧工業高等学校創立九十周年、関東六華会会報10号という節目の会報の特集号として通常8頁を12頁に増大して皆さんにお届けすることが出来ることとなりました。御協力、御支援頂きました方々に感謝申し上げます。

今号では、会報がきっかけとなり同期会を開催したとの報告が寄せられ、記事として頁を飾ることが出来ました。また、掲載広告も四件に増加することが出来ました。改めて御協力頂いた皆さんにお礼を申し上げます。

前号でも述べましたが、関東六華会会報のモットーは、関東地区同窓生の連帯の輪を広げる「絆」作りと記しましたが、若干でもその役割を果たせているものと、自画自賛しております。

会報が少しでも充実したのになってきたのは、なにより皆さんのご協力の賜物です。これからも、会員皆様のお役に立てるよう一層努力してまいります。

今後とも御理解、御支援の程よろしくお願い致します。ありがとうございました。

【編集委員】

馬淵、瀬谷、三橋、阿部



弾性粘着剤

はがせるセメダイン。



セメダイン株式会社

www.cemedine.co.jp